

阪神高速道路株式会社 技術審議会

技 術 審 議 会 資 料

No.6

日付 平成26年7月30日

交通技術委員会活動状況

平成26年7月30日

阪神高速道路株式会社

交通技術委員会

活動状況

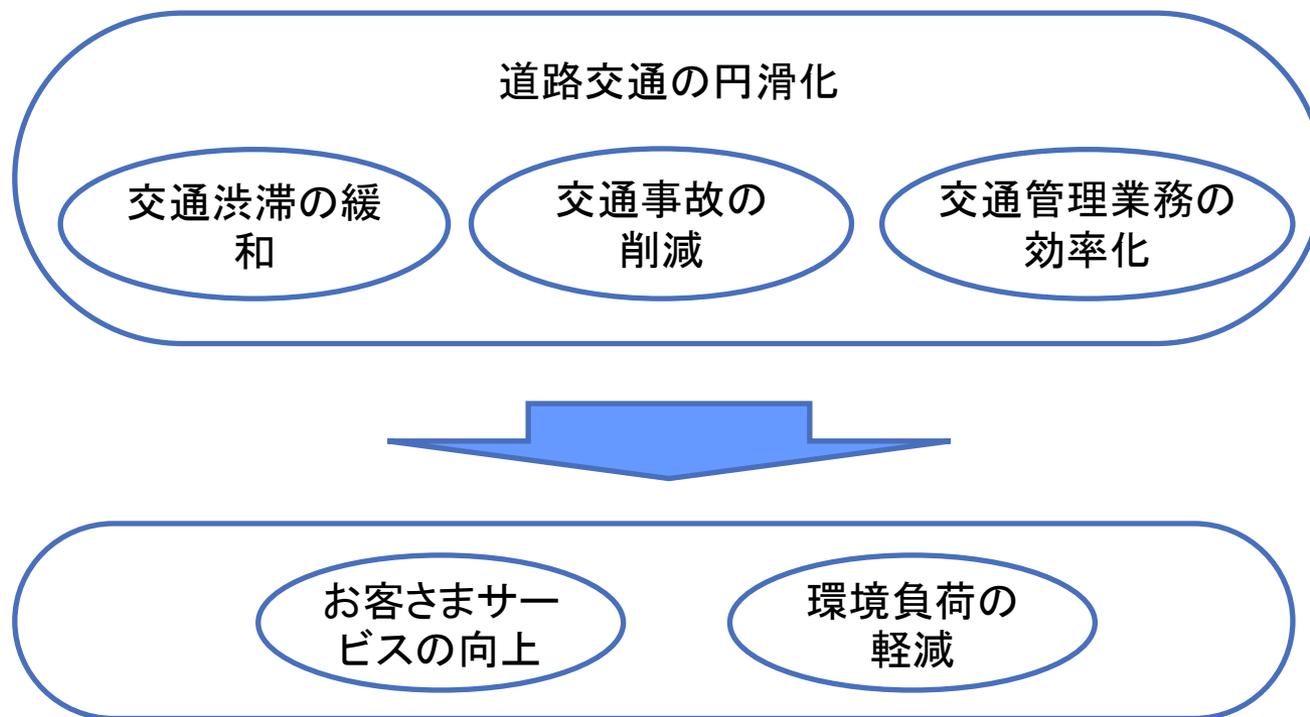
平成26年7月30日

阪神高速道路(株)

保 全 交 通 部

■ 委員会の目的

都市高速ネットワーク整備等の効果予測及び検証、交通管制システムをはじめとするITSその他の交通技術に関する審議を行うことにより、交通渋滞の緩和、交通事故の削減、交通管理業務の効率化その他の道路交通の円滑化に関する課題を解決し、もってお客さまサービスの向上及び環境負荷の軽減に資することを目的とする。



- 道路交通に係る施策の効果予測及び検証等
- 道路交通に係る制御及び運用等の検討
- 道路交通情報の収集、処理及び提供等の検討
- 道路交通システム等に係る整備方針の検討

- 道路交通に係る制御及び運用等の検討
 - ✓ 阪神高速道路における交通制御の基本方針
 - ✓ サグ部における渋滞発生メカニズムと対策
- 道路交通情報の収集、処理及び提供方針等の検討
 - ✓ 情報提供媒体毎の情報提供方針
 - ✓ 文字情報板における情報提供事象の優先度
 - ✓ 本線道路情報板における交互表示の運用

☆平成32年の交通管制システムリプレイスが予定

年度	平成25年度				平成26年度				
	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4	
四半期	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4
交通技術委員会	◎			◎	◎		◎		◎
幹事会	○		○		○		○		○
勉強会		○	○		○	○	○	○	

昭和55年度設定の方針を見直し

大和川線、淀川左岸線(2期)整備時における交通制御の基本方針(案)

【基本方針(大阪地区)】

他の道路との交通分担の適正化を図り、都市内道路網を効率的に運用するため、以下に示す基本方針をもとに阪神高速道路の交通制御を行う。

- ①環状線に円滑な交通を確保し、阪神高速道路網全体の機能低下を防止する。
- ②都心通過交通の環状線利用を抑制・分散し、外郭的な道路へ誘導することで交通分担の適正化を図る。
- ③阪神高速道路を利用する都心流出交通の円滑な流れを確保し、都心の交通混雑緩和を図る。
- ④阪神高速道路を利用する都心流入交通を抑制・分散し、都心の交通混雑の緩和を図る。

ただし、交通制御を必要最小限にとどめ、利用者が阪神高速道路を選択する自由をできる限り確保する。

- ◆新規ネットワーク整備しても「サグ」部渋滞は残存
- ◆トラカン・プローブデータ等により、渋滞発生要因について検証し、対策案を検討

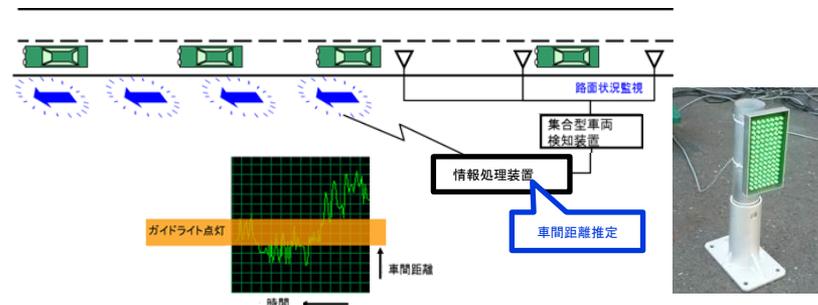
【対策案】

- ・自発光式ペースメーカーによる速度低下の抑制、一定間隔の車間距離走行への誘導
- ・情報板等による誘導により車線利用の平準化
- ・入路閉鎖等による車群の形成、交通集中の緩和

大阪 ← [3号神戸線 上り 深江付近]

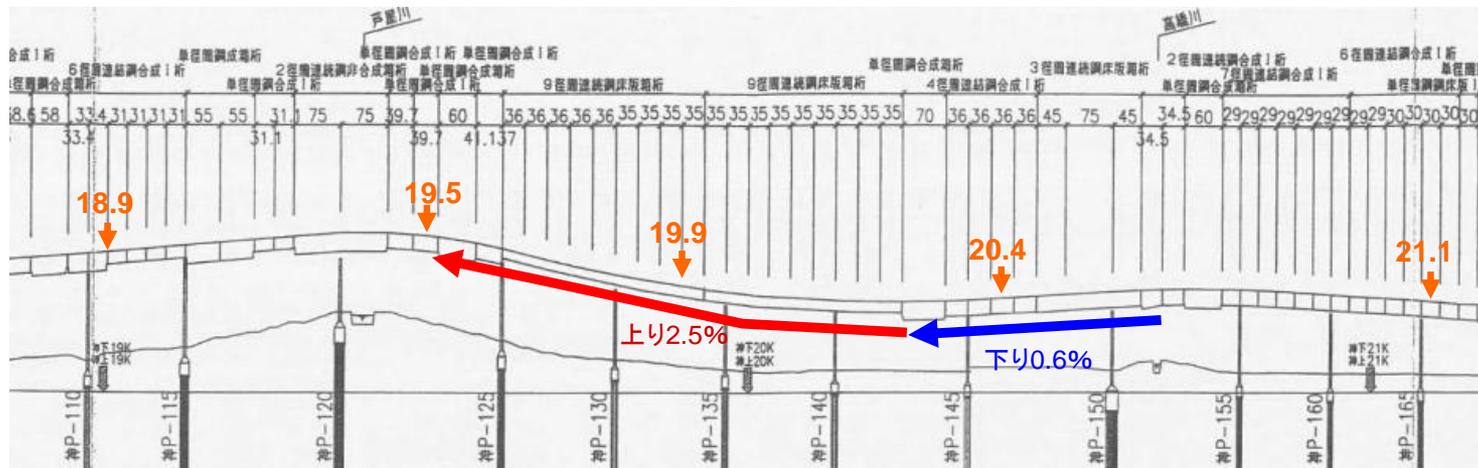


自発光式ペースメーカーによる対策イメージ

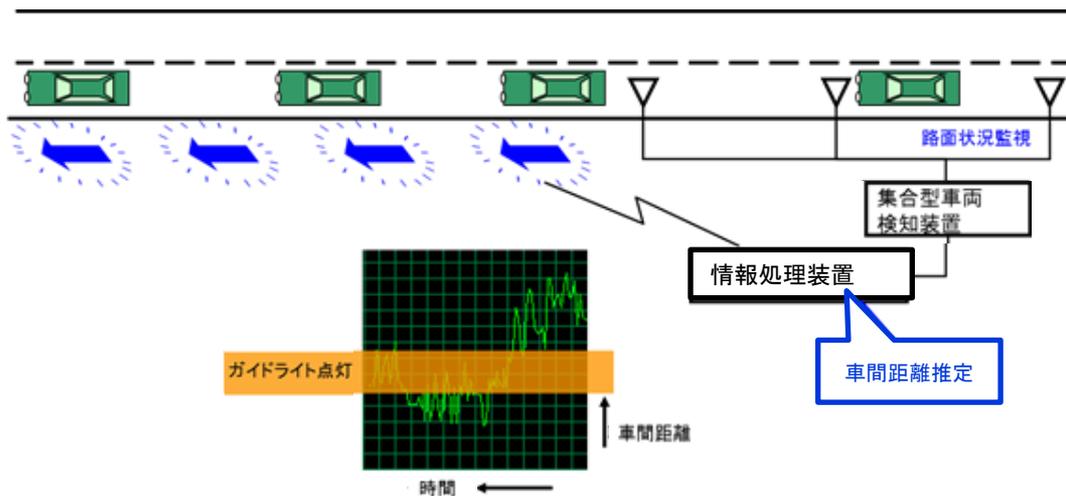


大阪 ←

〔3号神戸線上り深江付近〕



自発光式ペースメーカーによる対策イメージ



【背景】

- ・情報提供媒体毎の利用の変化
⇒情報ニーズと提供内容の整合性の確認



【実施内容】

- ・情報提供に関するお客さまの声の整理
- ・利用実態、ニーズに関するアンケート調査
- ・上記を踏まえた、情報提供方針の検討



【今後の予定】

- ・提供すべき・したい情報種類と提供媒体の関係、媒体特性の整理
- ・ユーザー属性も踏まえた情報提供方針の策定



【背景】

- ・ネットワーク整備に伴う複数経路選択の発現など
⇒情報ニーズと提供内容の最適化

【実施内容】

- ・文字情報板における情報提供優先度の見直し検討
- ・情報提供の基本方針設定と今後の検討手法、評価手法の議論

【今後の予定】

- ・各種パラメータの更新や細分化、設定値の見直し
- ・設定したパラメータの評価検証



どの情報を提供するか？

【背景】

- ・文字情報板で提供可能な情報量の限界
- ・事象交互表示機能の導入(入口・街路)

【実施内容】

- ・ドライビングシミュレータによる視認性実験

【実験結果】

- ・視認性に劣り、分かりにくいとの評価結果
- ・重要な情報が認識されない可能性

【今後の予定】

- ・情報板の情報量不足を行うべく、限定条件での交互表示による情報提供を継続検討



(交互表示)

この先
故障車 注意

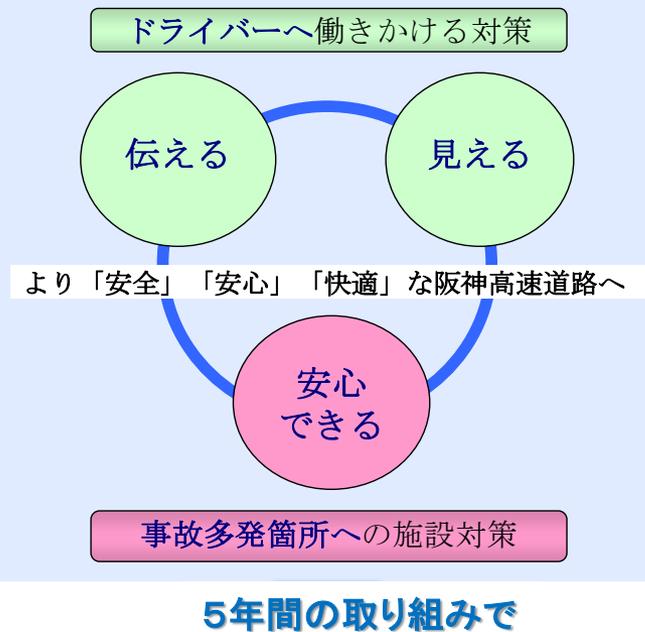
守口-城北
渋滞 2km

(同時表示)

守口
出口 渋滞中
この先
落下物 注意

・第2次アクションプログラムは、新たに**ドライバーへ働きかける対策**を柱のひとつに据え、平成22年度より実施。

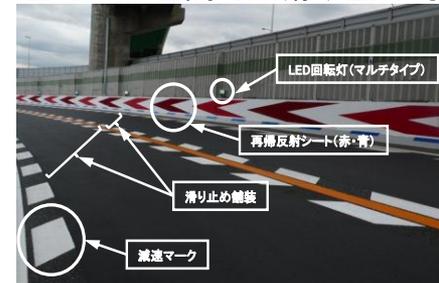
「阪神高速道路の交通安全対策 第2次アクションプログラム」



事故総件数 : 1,000件削減目標
人身事故件数: 100件削減目標

<安心できる対策>

■カーブ区間での滑り止め対策等



<見える対策>

■出口での逆走防止対策



<伝える対策>

■阪高SAFETYナビ

